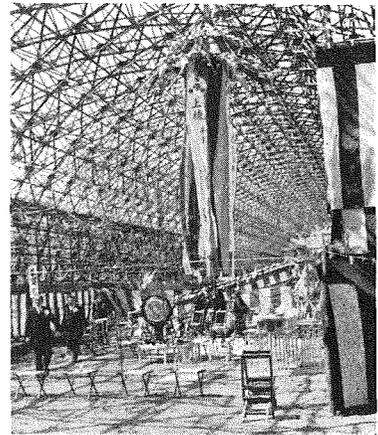


東京書籍株式會社の 新様式による建築と その上棟式

東京書籍株式會社では目下王子の梶原に工場を建築中であるが、同工場は總建坪2,500坪を3棟に建設するもので、構造は梁も桁も一本の柱もなく、然も耐震風的特殊構造ダイヤモンドトラスが採用されてゐる。過般トラスが組上つて珍らしい上棟式が舉行された。式は普通の神式によるものと大差はないが、異なるのは



献饌の次に献要釘が加つた事である。社長が要釘奉修の後金の銚を金の槌で打ち込むと飾つてある久壽玉が開いて中から花の雨が降り同時に平和の鳩五羽が飛出して天人の讃歌の光景を現し、五色の幟が垂れて、

萬歳棟 底つ巖根に生業の眞金
かたむる永遠の礎

千歳棟 神の御前に打つ槌をこれの新屋の
ためとぞする

と云ふ二首の歌と『千木すくに堅男木すくに打つ槌もともにことほぐ常盤堅誓と』の上棟式の古歌が現れる。前二首はダイヤモンドトラス製作者野澤一郎氏之作で、佐々木信綱博士が添削されたものである。

寫眞説明

上から順に(1)トラス組立を了り上棟式祭壇が設けらる(2)上棟式終了(3)足場の要らない組立工事(4)下は組上つたトラスの一棟。

